

開発力と職人技 受け継いで90年

まちの安全を守る消防車の側面に、くると巻いて装備されている「消防用吸管」は、防火水槽などから水を吸い上げるためのホース。消火活動に欠かせないそれらを作るのが、名張市蔵持町の「オーサカゴム株式会社 社名張工場」だ。

創業から92年、ゴムシートと消防用吸管を2本柱に、開発から製造まで独自の技術力を発揮してきた同社。名張工場は1984（昭和59）年に新設されて以来、主力工場として製品の多くを生み出している。

ゴムシートは建築現場からスポーツ施設まで、広範な場所では緩衝材や敷物などに使われており、さまざまな機能を備えた製品が勢ぞろい。品質はもちろん、環境に考慮した製品の開発も、他社に先駆けて10年来取り組んでいるという。

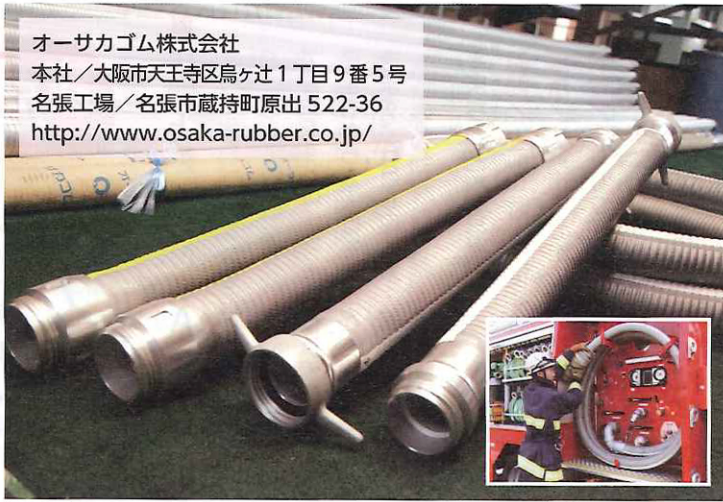
また、日本一のシェアを担う

という消防用吸管は、水を吸い上げる時に内側に圧力がかかると、それに耐える強さと柔軟性、さらに軽さを追求。操作性をアップさせることで、スムーズな消火活動に一役買っている。



同社名張工場=名張市蔵持町

消防用吸管の製造には機械を使用するものの、人の手と目を通して一つ一つ進める工程全体が「ほとんど手づくり感覚」なのだそう。「完全に機械化してはコントロールできない部分に手を掛けられるのが強みです」と品質へのこだわりは揺るぎない。暮らしのあらゆる場面を支え、私たちの命や財産を火災から守る製品たち。それらを生み出すために働く「職人」たちが、名張工場では技術と心意気を受け継いでいく。



長さや太さもさまざまな消防用吸管（枠内は消防車に取り付けた様子）



確かな製品で社会貢献を

技術部係長 辻本 哲志さん

「テレビニュースで消火活動に使われているのを見ると、やりがいを感じます」と話すのは、技術部係長の辻本哲志（てつじ）さん（49）。入社27年目で開発一筋、さまざまなゴムシートの性能を向上させ、今全国で使われている消防用吸管の開発にも設計段階から携わった。

「昔に比べたら、消防用吸管の扱いやすさは格段に違います。これからも、環境に優しく社会に役立つものを作りたい」とますます意欲を燃やす。



「自社のホースはひと目で分かりますよ」と笑顔で話す辻本さん

今回の会社は……オーサカゴム株式会社